

令和2年度第1回川口市文化芸術審議会 会議録

日 時 令和2年8月19日(水) 14時～16時

場 所 第一本庁舎6階 602・603会議室

出席者 (委員) 原田会長 吉岡副会長 吉田委員 岡村委員 高田委員 山口委員
宇田川委員 伊藤委員 齋藤委員 舘松委員 小林委員 松本委員
(事務局) 間中教育総務部長 江原文化推進室長 立花室長補佐
青木アートギャラリー館長 菅井主査 秋田主任 住本主事補

議事録

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付
- 3 教育長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 会長・副会長選任
- 6 会長・副会長挨拶
- 7 報 告

・報告(1) 「美術館建設検討事業について」事務局より説明、了承を得る。

【質疑応答】

(委員) 建設候補地について、駅近くの市の所有地とは、例えば県陽高校などか？

(事務局) 川口駅東口にあるURから更地返還された土地、再開発用地、公園や行政施設などを想定している。

(委員) 1ページ目、「産業とアートのコーディネート機能」とあるが、こういった形で産業の方向性と個人の表現活動を混ぜていこうと考えているか？

(事務局) 産業とアートというと結びつかないイメージがあるが、例えば、マンションや事務所にはよく絵やオブジェがある。そういったところで、市内のアーティストやアート作品を選考対象にしていれば、アートが商売に結びつき、作品の受け皿の創出につながる。また、例えば、鉄の彫刻を作る作家と鉄鋼関係の企業との連携により、よりダイナミックな作品が生まれることも考えられる。あるいは、市内の事業所がアーティストと結びつくことにより、新たな製品を生み出す可能性もあるというような想定をしている。

(委員) アーティストが活躍できる場所が増えていく可能性があるという解釈で良いか。

(事務局) その通りである。

(委員) 市で所蔵されている作品には、どのようなものがあるか。

(事務局) 横山大観や鏑木清方など日本画を主として、風景画で有名な塗師祥一郎の作品もある。しっかりとした収蔵ができる状況になれば、寄贈したいという話もいくつかいただいております、今後、作品は増えいくと考えている。

(委員) かつて携わった埼玉会館にも様々な寄贈作品があり、保存計画を検討した。美術を愛する方々や川口の財産を守ろうとする方々にとって、この美術館建設は大事な計画だと実感した。

(委員) 基本計画答申の36ページでは、市の直営で管理運営を行うような記載になっているが、直営の方向性でいくのか。

(事務局) 現在のところ、管理運営の方法について、指定管理か直営かということは決まっていない。

(委員) 個人的には、直営より指定管理などの方が良いと思うが、指定管理にしても様々な形態がある。美術館の運営がより上手く、フレキシブルに回る方法を早期に検討する必要があると思う。

(委員) 基本計画の中に、コロナ禍を踏まえた内容は盛り込まれているか。今回のような事態が施設運営などに及ぼす影響をどのように想定しているか。

(事務局) 審議会開催時はコロナ感染が広がっていなかったため、基本計画答申には盛り込まれていないが、施設の運営・継続に関しては、教育委員会の各施設で業務継続計画を策定し、それに基づき、マスクや消毒、入館者カード等での対応を行っている。新たに作る美術館も同様に業務継続計画を策定し、対応することになると考える。

(委員) 10ページ、展示ホールの活用事例のところに、「展覧会連携活用」として、レセプション・映画・演劇・音楽コンサート等の記載があるが、どのくらいの規模・座席数を想定しているのか。美術館であることを考えれば、防音対策も必要と思うが。

(事務局) 床面積としては、駅前のフレンディア程度の規模を考えている。防音については現段階では謳っていないが、今後設計を行う段階で、必要な仕様として掲げていく。

(委員) 私は太鼓をやっているが、中央ふれあい館の場合、建設前には防音という説明だったと

思うが、実際には簡易防音で、近隣から音漏れを指摘されて使用できなくなった。コンサートでの使用を考えているのであれば、簡易防音だけはやめてほしい。

(事務局) 現段階では決まっていないが、次の段階で必要な仕様を検討していきたい。

(委員) 11ページに収集作品の展示とあるが、常設展示か。常設の場合、部屋を設けるのか。

(事務局) 現状、まだ収蔵作品が出揃っていない状況ではないが、審議会としては、収蔵作品を寄贈された方も紹介するような形で常設したいという考えである。常設展示をベースに、企画展に発展していくという考え方だが、これについても、次の段階で具体的に検討していくことになると思う。

(委員) 常設だと、以前に観たという理由でパスされることがある。企画展の記載には、他の美術館と連携した巡回展というのもあり、楽しみである。

(委員) 23ページにアート図書館の記載があるが、市内の各図書館から美術関係の蔵書を移動するということか。本の貸出などはあるのか。

(事務局) 市内の図書館から移動することは考えていないが、美術館、研究機関として、専門の図書が必要になる。本の貸出については考えていない。

(委員) アーティストインレジデンスの記載があるが、どのような連携先を考えているのか。

(事務局) まだ具体的な検討はしていない。

(委員) アーティストだけでなく、ものづくりの職人など、様々な分野と連携ができれば良いと思う。

(委員) 横須賀市の美術館の場合、「無駄」といった市民の反対が多かったが、中には必要との意見もみられた。美術館だけでなく、劇場などを新設する場合も、最近では駅の近くに建てるが多くなったが、単体で多くの人に来ていただくことは難しい。図書館など、他の施設との併設や、様々なところとの連携も考えてはどうかと思う。

(事務局) 他の行政施設や他の美術館との連携は、当然考えていかなければならない。それと併せ、川口駅周辺の賑わい創出につなげることも検討すべきである。例えば、美術館の多目的ホールでのイベントに参加した後、市内の飲食店で食事をして、電車・バスで帰っていただくということも十分考えられるので、近隣の商店街・商業施設などとも積極的に連携していきたいと考えている。

(委員) 素晴らしい考えた。地域や商店街との連携は重要なテーマだと思う。

- ・報告(2) 「令和元年度川口市立アートギャラリーの事業活動について」事務局より説明、了承を得る。
- ・報告(3) 「令和2年度川口市立アートギャラリー事業の状況について」事務局より説明、了承を得る。

【質疑応答】

(委員) アトリアは結構頑張ってきたと思う。特に、子ども達の美術に対する熱を盛り上げてきた。コロナ禍を経て、こういう子ども達が将来の川口の文化芸術を担う人として育っていくことを考えると、改めてこうした努力の必要性を感じるとともに、美術館の必要性を実感する。

(委員) アートギャラリーのほとんどの事業が、前年度以上の来客数になっている。子どもの作品の展覧会など、近隣の方や小学生などの団体利用で増加しているようにも見受けられるが。

(事務局) 基本的には、団体で招待するようなケースはない。アーティストインスクールについては、対象校の授業の一環で、最後の報告・鑑賞の時間として、児童生徒に来てもらっているが、定期的に小中学生の団体を招いているということはない。

(委員) 郷土資料館は、バス会社と契約して、学校単位での見学を受け入れている。すぐにはできないと思うが、市内の多くの小学生に来てもらうため、バス会社との契約も検討してはどうか。

(事務局) 科学館でも、学年ごとにプラネタリウムの見学を実施しており、アトリアでも、学校全体や学年ごとに利用していただきたいと思う。スペースやバスのピストン輸送の問題等もあるが、検討していきたい。アーティストインスクールなど学校連携事業では、各学校に全校生徒分のチラシを配布しており、それを見て来館する児童生徒もいることから、引き続き実施していきたい。

(委員) アートギャラリーの事業の中で、やって良かったもの、続けていきたいものなどがあれば教えていただきたい。

(事務局) 昨年度、前川東小学校で行ったアーティストインスクールには、約4,800人にお越しいただいた。アトリアのアンケートでは、通りすがりに来館される方が非常に多い。昨年度のアーティストインスクールでは、一斉にワニが回っている様子が外から見える展示

をしたので、子ども連れの来場者が多かった。アトリアの前を通る人たちを呼び込むことを意識したのが良かったのだと思う。引き続き、展示方法について考えていきたい。

(委員) アトリアの来館者は若者が多い。彼らは、将来、美術館に足を運んでくれるようになると思う。若い人に人気のある漫画や原画展といったものを美術館で開催することは考えているか。

(事務局) 主として寄贈・寄託作品の展示になるが、様々な見せ方をチャレンジしていく方向で答申をいただいている。川口を表現できるようなサブカルチャー的なものがあれば、企画展でも取り上げられると思うが、現段階では具体的に決まっていない。

(委員) 文化施設の運営にあたり、支えてくれるボランティアが増えれば盛り上がると思うが、アトリアのボランティアの現状はどうか。

(事務局) 年報の20ページに、サポートスタッフボランティアに関する記載がある。アートボランティア登録制度として、1年ごとの更新ではあるが、登録していただいている。活動としては、ワークショップの補助をはじめ、正月に開催する「アートな年賀状展」の中の「アートなお正月遊び」というワークショップでは、企画から実施までを主体的にやっけていただいている。ボランティアも主体的に取り組めるところが、この登録制度の特長となっている。

(委員) ボランティアの活動は、もっと広げていただけたらありがたい。もう一点、練馬区では子ども達が公園の整備に参加している。子どもがデザインした遊具を日芸の先生が企画したりとか、市民や子供たちの目線で、今までにない新しい切り口で公園を考えるという取り組みである。川口市の美術館の場合も、駅近くの公園がそういう場になるということがあっても面白い。

8 議 事

・議事 (1) 事務局

【質疑応答】

(委員) 資料4-1について総論的な話をすると、文化芸術施策は、定量評価だけでなく定性評価も必要である。お客様の満足度や充実度、専門家の評価という部分を入れていかないと、行政評価だけではいけないと思う。「5 総評価・課題及び改善方策」の部分には、定性的な内容も入っているのか説明いただきたい。

(事務局) 2の項目は指標に対する達成状況、3・4は行政評価の数値だが、5については、文化芸術の視点からの評価と課題把握のために設定した。外部からの定性評価ということでは

ないが、定量的な実績数値を踏まえ、組織体制や手順、所有資源の活用や外部との連携といった視点も含めて、各部署が自己評価を行う形にした。また、各事業が位置付けられている基本目標等の目的に照らしてどうだったのか、どのような課題があるのかを当室が把握するための項目とした。

(事務局) 補足として述べたい。評価対象とする事業については、基本計画策定の審議の中で決めていただいたが、計画に位置付けられた事業には、文化振興を目的としていないものも含まれている。例えば、経済部が実施する映画祭は、若手クリエイターの発掘・育成を目的とし、SKIPシティプロジェクトを補完するために行っている事業であり、本来の目的は文化振興と違うところにある。したがって、文化振興を目的とする文化推進室所管の事業をチェックすることには問題はないが、異なる目的で各部署が実施する事業を文化振興の視点で評価することはなかなか難しいため、こういう案を提示させていただいた。各部署から上がってきた結果についてご審議いただいた後、最終的に、当室から、各事業の文化的側面を向上するためのアドバイスをさせていただければと考えている。

(委員) 評価はどのように行うのか。アンケートのような形でやるのか。

(事務局) 各事業を所管する各部署あてに書面で照会を行い、事業評価の趣旨を理解していただくため、個別に連絡を取りながら進めていきたいと考えている。

(会長) 事業評価は市民を対象にしたものではなく、市役所の組織を対象としたものか。

(事務局) 事業を実施している組織に対して行うものである。

・議事(2) 事務局

【質疑応答】

(委員) アーティストインスクールの規模や反響がだんだん大きくなっており、これにより美術や芸術に興味を持つ人が増えることはとても良いことだと思う。しかしながら、開催する学校が限定されるため、同じ市内でも、運良く参加できる子どもとできない子どもがいる。もう少し公平に、格差がなくなれば、美術に興味を持つ子どもや若者が川口で育っていけるのではないかと思う。企画する際は、学校単位、学年単位など、多くの子ども達が参加できるような工夫があれば良いと思う。

(事務局) アーティストインスクールの実施については、実施する側の人々の数、受け入れていただく学校の都合が一番大きいところである。美術の先生や校長先生のご理解が得られ、こちらの希望と学校の希望が合致したところで実施している。今後、ご意見を念頭に置きながら検討していきたい。

- ・議事（3）「その他」事務局からは特になし

【質疑応答】

（副会長） アトリアの写真を見ると、講座もワークショップもかなり密集している様子だが、コロナウイルスへの対応を踏まえ、来年度の実施はどのように考えているか。

（事務局） 講演のようなものについては、密を避け、換気をするという基本的な事項を守りながら、できる限り実施していきたい。講座など、人同士の接触が避けられないものに関しては、状況を見ながら開催見送りも検討していきたい。

（委員） 美術館の基本計画は、コロナについては反映されていないとのことだったが、それだけでなく、気象災害など、近年、自然環境も大きく変わってきている。頑張りすぎると税金の無駄遣いになるが、長い目で見て、今何をやるのが一番効率的なのかを考えなければならない。基本計画答申の34・35ページに施設形態が記載されているが、3案とも、2階から4階建ての想定になっている。アトリアの床改修にしても同様で、特にハードの整備は、浸水をはじめとした災害への対応も考慮すべきと思う。

（委員） 先ほど、美術館基本計画の中で話が出たが、防音だと思ったら簡易防音になってしまったというのでは困る。有名な建築家に丸投げするのではなく、学芸員を入れるなど、設計の段階からしっかりしたチェック体制を作っていき、皆さんの要望がきちんと反映されるようにすべきである。また、今ご意見のあったように、危機管理についてもチェックできるよう、人の手配を含めてお願いしたい。

（委員） 川口市文化祭についてだが、今年度の中止はどこで決定したのか。

（事務局） 実行委員会の委員の皆様にお集まりいただき、コロナウイルスへの対応等を踏まえ、ご協議いただいた結果、中止が決定されたものである。

9 閉 会